

会議名	第3回港区広聴システムの再構築に係るシステム開発業務業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年10月17日（金曜日）午後1時から3時まで
開催場所	港区役所9階913会議室
委員	<p>水野 浩孝 東海大学情報通信学部非常勤講師（委員長） 野上 宏 港区企画経営部長（副委員長） 久賀谷 郁夫 東京都デジタルサービス局DX協働事業部 　　区市町村DX協働課長（委員）【オンライン参加】 桜井 安名 特別区人事・厚生事務組合総務部情報政策推進課長（委員） 相川 留美子 港区企画経営部企画課長（委員）【欠席】 菊池 太佑 港区企画経営部情報政策課長（委員） 小笠 美由紀 港区高輪地区総合支所管理課長（委員）</p>
事務局	企画経営部区長室広聴担当
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 副委員長の選出について 3 第二次審査実施概要について 4 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) A事業者（30分間：説明15分+質疑応答15分） (2) B事業者（30分間：説明15分+質疑応答15分） 5 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 6 その他 7 閉会
配付資料	<p>[席上配付]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 第二次審査実施概要 ・資料2 第二次審査採点基準表（2事業者分） ・資料3 第二次審査における共通質問事項趣旨 ・資料4 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、モニター投影） ・資料5 第1回・第2回選考委員会議事録概要 <p>参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書（案）</p>
会議の内容	
事務局	<p>【1 開会】～詳細省略～ (資料の確認)</p> <p>【2 委員長・副委員長の選出について】</p>

事務局	人事異動により、企画経営部長が荒川から野上に変更となったことに伴い、副委員長を務めていた荒川委員に代わり、野上部長が委員として参加する。
委員長	<p>これに伴い、野上委員を副委員長として指名する。 (異議なし)</p> <p>水野委員長から野上委員が副委員長として指名された。</p>
	<p>【3 第二次審査実施概要について】 (事務局より資料1・2について説明)</p>
委員長	<p>選考委員7名中1名が欠席しているので、出席した6委員の点数を1.17倍にしたいと思うがよいか。 (異議なし)</p>
	【4 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】
事務局	<p>A事業者の入室をしていただく。</p> <p>(A事業者入室、プレゼンテーション実施)</p>
事務局	時間になったため、説明終了。説明につき、選考委員から質問を行う。
委員VII	業務省力化の1番のポイントは。
A事業者	情報の早期伝達と情報共有が重要だと考えている。受付部門から担当部門への依頼時のメール通知や、遅延案件の督促メール機能などのサポート機能を提供している。
委員VII	メールが埋もれてしまうことに対する工夫は。
A事業者	まずはシステムを利用してもらえるよう目立つように表示するほか、依頼が来ていることを職員ポータルに常に表示するという工夫も実現できたらと思う。
委員V	パッケージシステムとのことだが、機能追加や拡張は可能か。
A事業者	可能。カスタマイズは柔軟に行っている。

委員Ⅴ	パッケージ自体を変えるというより港区に合わせた提案となるのか。
A事業者	港区の課題を改善するための機能を追加することに重きを置きたい。
委員Ⅴ	パッケージ自体の機能追加、拡張の頻度は。
A事業者	年1回以上のアップデートの検討・実施をしている。お客様ヒアリングのうえ、必要な機能のバージョンアップで組み込んでいる。
委員Ⅴ	少なくとも年に1回か。
A事業者	パッケージの機能が港区に合う、合わないがあると思うので、お客様と確認していきたい。
委員Ⅳ	ポータルに件数を表示することになるとグループウェアの開発が必要になるか。
A事業者	今回の機能要件一覧には入っていないため、提案という前提で話をした。
委員Ⅳ	実現可能なのか。
A事業者	過去に他に自治体様で連携した実績がある。ポータルを管理しているベンダーとの連携、確認が必要になる。
委員Ⅳ	追加のコストがかかるということか。
A事業者	認識のとおり。
委員Ⅱ	生成AIによる広聴対応の回答作成について、現場判断との整合性はどうか。
A事業者	過去の回答データを活用し、類似回答を検索する。広範なデータではなく、区の過去データに基づいて回答を生成する。最終的には職員の確認が必要となるが、過去のデータを参照することで、的外れな回答は減少すると想定している。
委員Ⅱ	できればAIが意見申立者の意見に対する区の対応についても支援してもらえるとよい。

	また、システム利用者が直感的に使えるようにカスタマイズしたいと思うが、画面レイアウトのカスタマイズ範囲と開発期間について教えてほしい。例えば、申立人の意見を大きく表示する、関連する意見を表示するなど、直感的に操作できるとよいと思っている。
A事業者	ヒアリングの上、スケジュールと費用のバランスを考慮して対応可能である。また、重要機能と判断された場合、パッケージのバージョンアップに組み込み、低価格での提供も検討可能と考える。
委員Ⅲ	AⅠは既に活用されているのか。
A事業者	社内では独自の環境を構築して活用している。お客様でも実際に着手しているユーザーがいる。
委員Ⅲ	他自治体で導入しているものはバリエーションがあるのか。
A事業者	自治体により運用は異なる。最近は住民向けの情報公開機能を活用する事例が増加している。
委員Ⅲ	機能対応状況で任意項目がバツとなっている理由はなぜか。技術的に困難か。
A事業者	どちらかというとスケジュールの面で対応が難しいと判断している。
事務局	以上で、A事業者によるプレゼンテーションと質疑応答を終了する。 (A事業者退室) これから採点を行っていただく。
事務局	B事業者の入室をしていただく。 (B事業者入室、プレゼンテーション実施)
事務局	時間になったため、説明終了。説明につき、選考委員から質問を行う。
委員Ⅶ	職員負担の省力化について、1番のポイントは。

B事業者	既に利用されている Microsoft365 の基盤で広聴システムを使えること。Outlook や Teams を既にスマートフォンや自宅で利用されているのであれば同様にスマートフォン上等で安全に利用でき、外出先でも決裁が可能。また、Microsoft365 と同じプラットフォーム上であり、別システムを作ることと比べ、管理の手間が一つで済むということが強み。さらに、AI は進化しているので、これに対応してシステムをアップデートさせ、将来的には画像や音声から文字入力することができるようになると考えている。
委員V	システム改修には費用がかかるのか。保守費の範囲内で対応するのか。
B事業者	改修費を都度入札するパターンと、保守費の範囲内で対応するという 2 パターンがある。
委員V	Microsoft の機能を使っているということは、パッケージシステムではなく、港区オリジナルのシステムになるのか。
B事業者	認識のとおり。
委員V	AI Builder について、処理のたびにクレジットを消費するということだが、どの程度利用したら想定しているクレジットの範囲内で対応できるのか。
B事業者	従量課金となる。月間最大 300 件を想定している。
委員V	AI が生成したものに対して、さらなる指示をすることは可能か。
B事業者	技術的には可能。
委員IV	保守は月 32 時間との記載があったが、超えた場合どうなるか。また、生成 AI の学習データは今後成熟していくということか。
B事業者	保守の月 32 時間というのは来年度の概算ということで提示している。また、AI の成熟は想定していない。港区としても古いデータをあまり使わないということを聞いています。必要であれば過去のデータをインプットして対応することができる。
委員VI	Power Apps を使って行政システムを作った実績はあるのか。港区の要望に沿ったシステムを作ることになると思うが、スケジュールは間に合うのか。

B事業者	広聴システムは初めてだが、数千名規模の会社において、Microsoft のAIを活用したシステムを作っているので問題ない。 スケジュールも対応可能。機能要件一覧を読んで、対応可能と判断した。
委員Ⅱ	AI 解析ボタンを何度も押すと AI Builder のライセンス費用がかさむと思うので、ヒューマンエラーが出ないように制御する必要があると思う。 また、外出先から決裁できるという話があったが、どのように安全性が担保されているのか。
B事業者	Microsoft がセキュリティに対して巨額の投資をしており、本システムも Microsoft のセキュリティを享受できるという意味で安心と申し上げた。また、港区の運用として外出先で見られないようにすることであれば、制御可能。
委員Ⅲ	もし御社に自治体実績があったとしたら、今回の提案内容は異なるものになっていたのか。
B事業者	ほとんど同じ提案になっていると思う。機能要件一覧を見たうえで難しいとは感じなかった。
事務局	B事業者のプレゼンテーション及びヒアリングが終了した。 これから採点を行う。採点記入後、事務局へ提出すること。
	(採点) (採点集計。様式4をモニターに投影。)
事務局	【5 第二次審査結果及び事業候補者の選定について】 (採点結果について説明。)
委員長	各委員、講評をお願いしたい。
委員Ⅶ	A事業者のものは、使い手側の立場で見たときに、これまでのシステムとの大きな変化が感じられなかった。B事業者は、実績からみると未知数ではあるが、今後はやはり提案にあるAIの活用が必要。経験が少ない職員に対するサポートがプラスになると思ったことから、B事業者を高く評価した。
委員Ⅴ	一次審査も二次審査のときもB事業者を高く評価した。安定性を取るのか、

	発展性を取るのか悩んだ。いずれの事業者もしっかりととしたプラットフォームはあると感じた。今後、システムをどう作り込んでいくか調整していくけるとよい。
委員Ⅱ	発展性について、B事業者を高く評価した。既存のものよりも柔軟性があることに期待したい。また、担当の方の熱意、取組意欲を感じた。A事業者のシステムについてもカスタマイズを加えることで発展が見込めるとも感じた。
委員Ⅳ	採点が難しかった。プレゼンを受けて、発展性を考えたらB事業者だと考え、二次審査ではB事業者を高く評価した。一方、ゼロからの構築と考えるとA事業者のほうがスムーズにいくのではと感じた。
委員VI	A、B事業者両極端だと思った。B事業者は一次審査の際には具体性が読み取れず不安だったが、デモを見て具体的なシステムのイメージがわかった。ただ、開発期間が限られているので要件定義が難しいのではないかと思った。一次審査と二次審査で印象が違った。
委員III	一次審査のときは、提案のわかりやすさを含め、AとBの差をつけてA事業者を高く評価したが、二次審査ではやはり発展性の点でB事業者を高く評価した。
委員長	意見交換を踏まえ、自身の採点について振りかえる時間を設ける。採点を変更する場合は、採点表の原本に朱書きで修正すること。 (採点) (採点集計。修正後の様式4をモニターに投影。)
事務局	第1次選考では、A事業者が1,578点、B事業者が1,509点、第二次選考ではA事業者が739点、B事業者が828点となり、合計はA事業者が3,310点満点中2,317点、B事業者が3,310点満点中2,337点であった。なお、第一次選考及び第二次選考のいずれも最低基準ラインの60%以上の得点率で審査基準を満たしている。
委員長	B事業者を委託事業候補者として選出したいと考えている。 皆さんの講評のとおり、全員の印象からはB事業者のほうが高いのではないかと思った。 質問、意見はあるか。

	(質問、意見なし)
委員長	当委員会としては、B事業者を事業候補者として選定することとするが、問題ないか。 (異議なし)
	B事業者を委託事業候補者として確定する。
	【6 その他】 (事務局から事務連絡) (質問等なし)
	【7 閉会】 (委員長から閉会の挨拶)